

## 8 点検・評価

項目	評価の視点	レベル	
		I	II
8-1	自己点検・評価のための仕組みおよび組織体制を整備し、適切な評価項目および方法に基づいた自己点検・評価を、組織的、継続的な取組みとして実施しているか。	◎	

### <現状の説明>

本会計大学院を対象とする自己点検・評価を実施するに当たっては、学内規程（自己点検・評価に関する規則）に基づき、学校経営委員会の下に自己点検・評価委員会を組織して実施している。

自己点検・評価は、自己点検・評価委員会が定める自己点検・評価項目（自己点検・評価基準）に基づき行われている。自己点検・評価委員会は、07年度の自己点検・評価において全9章・143項目からなる自己点検・評価基準を決定した。

自己点検・評価委員会は5名からなる。委員には教員の委員2名のほか学外の委員1名を含んでいる。このように、自己点検・評価の過程において必ず学外者による検証が行われるのが本会計大学院の自己点検・評価の特長である。

自己点検・評価は、本会計大学院の研究科委員会、大学院事務局及び自己点検・評価委員会の連携の下に組織的に行われている。本会計大学院では、05年度の開設以降、06年度（05年度を評価対象年度とする。）と、07年度（06年度を評価対象年度とする。）と継続して実施している。

<根拠資料> 資料番号33 自己点検・評価に関する規則  
自己点検・評価報告書（06年度実施・05年度評価対象）

8-2	自己点検・評価の結果を広く公表しているか。	◎	
-----	-----------------------	---	--

### <現状の説明>

自己点検・評価の結果は自己点検・評価報告書として取りまとめ、本大学院のウェブサイト上に掲載し、広く公表している。

<根拠資料> 資料番号34 LEC大学ウェブサイト「自己点検・評価報告書（平成17年度）」  
([http://www.lec.ac.jp/about/self\\_check/index\\_17.html](http://www.lec.ac.jp/about/self_check/index_17.html))  
自己点検・評価報告書（06年度実施・05年度評価対象）

8-3	自己点検・評価および認証評価等の外部評価の結果を当該経営系専門職大学院の教育研究活動の改善・向上に結びつけるための仕組みを整備しているか。	○
-----	---	---

<現状の説明>

本学においては、自己点検・評価の制度設計上、学長等に対し、自己点検・評価報告書において改善が必要と認められたものについて改善に努めるべき義務が課せられている（自己点検・評価規則第11条の3第2項）。また、実際の改善に向けた取り組みは、FD委員会における審議等の仕組みを通じて実践されている。

<根拠資料> 資料番号33 自己点検・評価に関する規則

8-4	自己点検・評価および認証評価等の外部評価の結果を当該経営系専門職大学院の教育研究活動の改善・向上に有効に結びつけているか。	○
-----	---	---

<現状の説明>

05年度に実施した自己点検・評価の結果、改善を要する点として、たとえば「専任教員概念の整理」という指摘事項がある（05年度実施自己点検・評価報告書第81頁参照）。これを受け、研究科委員会において継続的に審議を重ねた結果、専任教員は研究科委員会への参加等により本会系大学院の教育課程の編成に責任を負うことのほか、応分の授業負担をすることとした。具体的には、専任教員は原則として8単位以上の授業を担当することとした。これは、08年度から実施予定である。

<根拠資料>

**[点検・評価]**

**長所**

関連する「評価 の視点」	自己点検・評価への取り組み
<p>本会計大学院を対象とする自己点検・評価を実施するにあたっての自己点検・評価委員会は、学外委員1名を含め5名で編成されており、組織的に行われている。また、その結果については、報告書としてまとめられた上で、本会計大学院のウェブサイトに掲載し、広く公表されており、問題はない。</p>	
根拠資料	

**今後の方策**

<p>今後も引き続き、研究科委員会、大学院事務局とも連携しながら、自己点検・評価委員会にて組織的に実施していく。</p>	
根拠資料	

## 問題点

関連する「評価の視点」	自己点検・評価での問題点の改善
<p>自己点検・評価の結果、改善を要する点として指摘された点については、FD委員会などを通じて改善に向けた活動を行っていくことになる。これまでも具体的に改善された点は確認できるが、今後もより一層の努力を期待する。</p>	
根拠資料	

## 今後の方策

<p>改善を要する点にあげられた問題点については、改善に向けての具体的方策に落とし込みをし、確実に実践をしていくことが望まれる。</p>	
根拠資料	